



東風

横浜市立綱島東小学校

「挨拶は心のサプリメント！」

校長 三橋 国雄

3月弥生、町のいろいろなところで梅や桃の花が咲き始めました。これからきれいな景色の季節になります。今年は寒暖の差が大きく、子ども達や教職員も体調を崩しやすいので心配ですが、健康管理に気を付けながら年度末のまとめをしっかりとしていきたいと思います。

先日新聞の投稿欄を読んでいたら次のような記事がありました。それはある女子中学生が感じている挨拶の大切さについて書いてありました。私は毎日できる限り東門で子ども達の登下校を見守っています。私が「おはようございます」や「さようなら」と声をかけると①言葉にして返す子②会釈で返す子③目をしっかり合わせてアイコンタクトをとる子④友達との話に夢中で通り過ぎる子⑤うつむきながら通り過ぎる子、反応は様々ですが、概ね①～③の反応を示してくれます。では、その女子中学生がどんな風に感じているのか投稿を紹介します。

『私は挨拶をした時、挨拶を返してもらえないと、とても悲しくなります。普段、挨拶をする事になれていない人は、恥ずかしさが先に立ち、挨拶がしたくても声に出せないという人もいるかもしれません。けれども、毎日毎日挨拶をしているうちに、挨拶を返してくれるようになりました。挨拶をすると知らない人と仲良くなるきっかけになり、挨拶を繰り返していると顔見知りの人が増えてきます。そして挨拶する事で一日が楽しく過ごせるようになっていきます。お互いの心が通じ合えたように感じ、自分の心が温まります。私にとっては、心のサプリメントの一つです。苦痛に感じるのではなく、楽しんでやりたいものです。』

綱島東小学校の子ども達は、私との挨拶はできていると思います。しかし、その時にどんな思いでいるのかで、自ら進んで挨拶をしていると感じるのか、自ら挨拶することができていないと感じるのか、分かれてしまうようです。この女子中学生のように、お互いの心が通じ合えるというようなイメージをもって挨拶をすると皆さんの意識も変わるかもしれません。ぜひそんなことを考えて挨拶をしてみてください。

あと3週間で卒業する6年生には、もうすぐ次の3年間が始まります。この3週間は、6年生にとって中学に向かう一人ひとりの心づくりの期間だと思います。乗り越えられないことはありません。一歩ずつ、まずは目の前の3週間を。そして、その向こうに広がる3年間を、自分の目標をしっかりとをもって過ごしてほしいと思います。また5年生にとって、この3週間は最上級生として来年度、50歳を迎える綱島東小学校を引っ張っていくための、一人ひとりの心づくりの期間だと思います。ですから5年生も自分の目標をしっかりとをもって過ごしてほしいと思います。心の底から、声を限りに応援します。

コロナ禍の中、新生活様式を考える試行錯誤の1年でした。保護者の皆様そして地域の皆様、子ども達の学習のために力をお貸しくださった支援員の皆様、教育ボランティアの皆様、学校教育に深い理解と温かいご支援を賜りました。綱島東小学校より心をこめて、そして声をそろえて『ありがとうございます』を贈らせていただきます。